

Human Rights

人権・同和教育だより

2024年度（3学期末号）

発行日：2025年3月19日
発行者：香川県立高松南高等学校
人権・同和教育部



◎最近のテレビドラマから（人権・同和教育主任 山岡良子）

TBS日曜劇場で放送中のドラマ『御上先生』を見ています。ドラマの説明や感想は割愛しますが、印象に残る言葉を挙げると「パーソナル・イズ・ポリティカル」（個人的なことは政治的なことに関わっている）です。ドラマではさまざまな社会課題、例えば「生理の貧困」や「ヤングケアラー」などが扱われていましたが、個人が抱える生きづらさは、実は社会構造の問題とつながっていることがうまく描かれていました。そして、このことは人権・同和教育の学習内容やさまざまな人権課題でも同様であるのがよく分かります。個人的なことだと決めつけず、まずは「考える」ことから始めたいものです。

保護者の皆様には、日頃から人権・同和教育の活動にご協力くださっていることに、厚くお礼を申し上げます。

◎3学期の人権・同教育LHRの実践報告

1年生の学習活動（学習課題：さまざまな差別） 主題「～差別と偏見について考える～」

1年生は、無意識に心の中に持っている先入観や思い込みが気づかないうちに差別を生んでいることを、様々な事例を通して体験しました。学習後の感想には「身近に偏見や差別がたくさんあり、勝手な思い込みで無意識に偏見や差別をしていることに気づくことができた」「自分に自覚がなくても相手に辛い思いをさせていることがあるので発言には気をつけたい」「多数の意見が正しいとは限らないということも実感できた」などの意見がありました。正しい知識を持って判断することの重要性、相手のことを知るための努力の必要性について学ぶことができました。



2年生の学習活動（学習課題：同和教育） 主題「部落解放運動と現代社会とのつながり」

2年生は、2学期の「水平社宣言」をもとに上記のテーマで学習を行いました。現在、小・中学校の教科書が無償であることは当たり前となっています。しかし、無償となるまでには被差別部落の人々が声を挙げて教科書無償運動として闘った歴史があること、そのおかげで獲得できた権利であることを学び、私たちがその恩恵を受けていることに気づくことができませんでした。

さらに、現代においても様々な人権問題が存在しており、差別を解消するための3つの法律があることを確認しました。生徒からは「様々な人が生きやすいように、自分に何ができるのか考えながら行動したい」「自分のことだけでなく周りに目を向け理解することで多くの人々の人権を守ることができるといった感想が聞かれています。一人ひとりが正しい理解をし、行動することの大切さを改めて学ぶことができました。



特集

◎「共生社会を築いていくということ」 福祉科教員 佐藤果菜子

香川県では、平成30年4月1日に「香川県障害のある人もない人も共に安心して暮らせる社会づくり条例」が施行されました。これは、共生社会の実現を目指す条例です。この条例のリーフレットには、「互いの歩み寄り」について書かれています。「互いの歩み寄り」とは、配慮を求める側と提供する側は自らの主張のみではなく、互いに相手の事情を考慮しながら対等な立場での建設的な対話することだそうです。みなさんは、相手の事情を考慮する想像力を持っていますか。人権・同和教育の授業は、差別について知るとともに、仲間と対話を重ね、他者軸について思考を巡らす機会でもあります。共生社会を築く一員として、人権について学びを大事にしてください。